

# ちくしのびと

chikushinobito 27

今“輝いている”人・団体を取り上げる「ちくしのびと」。  
今回は、佐賀競馬場でデビューし、通算50勝を越える  
2年目の騎手、本市出身の林 悠翔さんを紹介し



▲就学前まで原田区で育ちました

## 生き物に関心を持った筑紫野市での幼少期

小学校入学前まで、本市で過ごした林 悠翔騎手。幼いころは、家の近くの公園で走り回って遊びました。生き物に関心を持ち始めたのも、自然豊かな環境での楽しい思い出がきっかけです。馬に興味を持ったのは小学生の乗馬体験を通して。その後訪れた東京競馬場でのレースの迫力に魅了され、騎手を志すようになりました。

## 中学校卒業後、親元を離れ学校へ

15歳で騎手になるための学校に入学し、2年間、馬術の基礎や競争訓練を積み重ねました。「2年間はあっといいう間でした。初めて訓練で乗る馬は大きく、怖かったです」と振り返ります。17歳で騎手デビューし、現在2年目の19歳です。



▲ゴールする林 悠翔騎手



▲最後の直線、応援の声がはっきり聞こえる

## 馬、天候状態、同じレースはない

馬によって性格も得意な走り方も全く違い、走る速度は60キロになります。また、多いときで一日9レースに出場することもあり、体力と集中力が必要です。

## メンタル面の強化が課題

現役通算5000勝を挙げた元騎手の鮫島調教師が、自分の技術を継承したいと唯一指導しているのが林騎手。鮫島調教師は林騎手に「考えすぎず、前向きにレースに挑め」と伝えていきます。林騎手は多くの人に一目置かれる騎手となるため、日々、精神と技術を磨いています。

## ▲鮫島 克也きょう舎初の所属騎手



## 林騎手より、筑紫野市のみなさんへ

「佐賀競馬では、中央競馬で活躍した馬や九州で生まれた馬などが、スポットライトを浴びて懸命に走る姿を見ることが出来ます。見ている人も自分も納得できるレースができるよう、頑張りますので応援よろしくお願いします！」

※佐賀競馬場は、佐賀県と鳥栖市で組織する佐賀県競馬組合が主催しています。